

下野市立石橋中学校

1 学校課題

「学び合いの授業を通じた、確かな学力の育成 ―主体的な対話での学びを意識して―」

〈 学校課題設定の理由 〉

本校では、学び合いの授業について研究を進め4年目となる。3年間の研究の成果として、授業は教師主導の一斉型講義形式から脱却し、生徒同士で課題解決に向けて、自分の意見や考えを他の意見と比較しながら練り上げていくという活動が中心となってきた。

しかし、「学び合い」の授業が浸透する中で、本来の「学び合い」の良さを感じられない、型だけを取り入れる授業が増えてきた。また、ジャンプ課題が独り歩きし、効果的に生徒一人一人の基礎学力が高まったかも疑問である。このような授業のマンネリ化、停滞感、行き詰まりを打開するために、我々教師がもう一度授業とはどうあるべきかを考え、確かな学力の育成を目指すためには、これからも生徒一人一人が主体的に対話（友人、教師、教材）していくことが大切と考え、今年度の課題とした。さらに、今まで築いてきた、問題解決にあきらめずに取り組んだり、協力しながら様々な課題の解決に向けて共に助け合ったりできる生徒を育成するために、今後も「学び合い」のある授業を継続する必要があると考える。また、教師のみならず、PTA や地域のあらゆる方々の教育力にも頼りながら、教師や子ども、そして保護者、地域等学校関係者すべてが笑顔に満ちた地域一体型の学校を目指していきたい。

2 研究計画

(1) 研究仮説

「学び合い」活動を取り入れることにより、生徒一人一人が主体的に友人や教師、教材と対話し、それによって、基礎・基本が定着し確かな学力が身に付くことを教職員が理解し、「学び合い」を取り入れた授業を多く展開することによって、本校のビジョン「生徒も先生も自ら輝く学校に」の中の「輝く授業」に近づけるのではないだろうか。

(2) 研究の方法

- ① 「学び合い」活動について共通理解のもと、基礎基本の定着を目指して、全職員で協同的な学びを組織する。
- ② 教師が互いに授業を見せ合い、互いの技術や考えを交換することを通して授業力の向上を図る。具体的には、各人が前後期に各1回、2授業以上（計4授業）の公開を行うなどの校内研修を実施する。

前期	6月20日（月）～ 6月24日（金）
後期	11月28日（月）～12月 2日（金）

- ③ 外部から指導者を招聘して、取組への指導助言をいただく。

7月 7日（木）	S&Uコラボ公開研究会	講師：宇都宮大学 松本 敏 先生
9月30日（金）	自主公開研究会	講師：明治大学 岸 磨貴子 先生
11月29日（火）	S&Uコラボ公開研究会	講師：宇都宮大学 松本 敏 先生

年度内3回の公開研究会を実施することで、成果や課題を共有するとともに研究の方向性や現状についての助言をいただく機会とする。

3 研究内容

(1) 「学び合い」の授業についての共通理解

職員研修の時間を活用した研修報告や各種調査結果の共有および分析を行う。

- ・「知識伝達型」から「知識活用型」への転換
- ・小グループによる学習場面の創造。多種多様な形態の研究
- ・問題解決的な学習場面の創造
- ・「学びの作法」等、指導・指示の徹底

(2) 学びを中心とした授業の創造

校内授業公開期間を前後期ごとに設定することで、より学校課題を意識した授業を公開・参観しあうことで授業力向上を目指す。

- ・対話のある学びの時間の確保
- ・生徒の学びに値する学習課題の工夫・設定
- ・思考力・判断力・表現力を育む学習活動の展開

(3) 授業形態の工夫

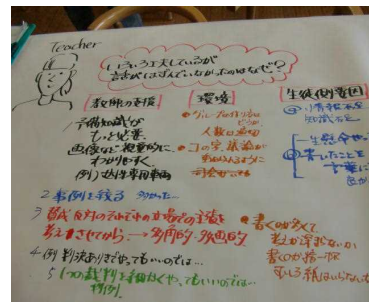
学習内容に応じて最適の形態を選択することで学習の成果を高める。

- ・一斉型、ペア型、コの字形など活動に合わせた選択
- ・男女4人混合のグループによるグループ学習の展開
- ・「活動（個人作業）」「協同（グループ活動）」「表現の共有（対話）」の展開

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ① 職員研修の時間を活用して全職員が関わる形で各種調査結果の共有および分析を実施することができた。また、授業では学習形態の流動性を生かして、形式に固執しない活動内容に合った形態を選択することで効果的な学習につながっている。
- ② 校内授業公開期間を設けたことで各教員が自分の授業を再考するとともに、職員間で課題等を共有する機会を増やすことができた。学び合いの授業についての共通理解や授業力向上に結びつけることができた。
- ③ 公開授業及び研究協議・講話（宇都宮大学大学院の松本 敏先生、明治大学の岸 磨貴子先生）から現状の評価や研究の新たな視点等を得ることができた。



自主公開研究会では研究の進め方や協議の進め方について講話をいただいた。講話ではICT機器を活用して当日の授業や生徒の様子が示された。また、授業者や参観者が感じた違和感から協議テーマを決めたり、絵や図を多用したポスター形式でまとめていくことでイメージを共有しやすくしたりする方法を教授いただいた。

(2) 課題

- ① 「学習内容に応じて学習形態を工夫する」中で、「学びの作法」の徹底など、教員が意識して指導する必要が生じてきた。目指す生徒の姿をより明確に全職員での取組を強化したい。
- ② 校内授業公開期間をどこに設定するかが難しい。行事や進路関係の事務などと重なることがないように設定することで負担感を軽減したい。また、今年度は参観者が視点を設定したが、授業者からも視点を提示できるようにすることで双方向での授業力向上につなげたい。
- ③ 外部からいただいた指導助言や本校職員のアンケート、諸調査の結果を生かして研究計画を見直すことでより効果的に推進していく。